



4月から開幕したトラックシーズンでは若手選手の活躍が目立ち、チームに活力を与えてくれました。

新入部員の助川拓海選手、笠原大輔選手が入社後初レースで5000mの自己ベストを更新すると、チーム全体が勢いに乗り始めました。5月に開催された九州実業団選手権では、10000mの1組目に出場した鈴木創士選手が他を圧倒するラストパートを繰り出し、見事組1着でフィニッシュしました。1500m・5000mに出場した漆畑瑠人選手は、両種目とも2着でフィニッシュ。1500mでは外国人選手のハイペースに対応し、自己ベストを更新しました。

6月に開催された北九州市民選手権の5000mでは、鈴木創士選手が組1着でフィニッシュし、自己ベストを更新。九州実業団選手権に引き続き、勝負強さを発揮しました。各チームのエース級が集う最終組に出場した合田椋選手も、持ち前のスピードを活かし日本人選手トップでゴール。今季3回目の自己ベストを更新し、好調をアピールしました。

MGCに向けて調整を進めている古賀淳紫選手は、4月にぎふ清流ハーフマラソン、6月に仙台国際ハーフマラソンに出場。2レースとも外国人選手相手に引けを取らない走りを見せ、日本人選手トップでフィニッシュしました。

これから夏の鍛錬期に臨みます。1人1人が課題を克服し、秋以降のレースで結果を残せるようチーム一丸となって練習に取り組んでいきます。引き続き皆さまのご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

鈴木創士選手



選手コメント

漆畑 瑠人

5月に行われた九州実業団選手権では1500m、5000mの2種目で2位となり、結果を残すことができました。しかし、上期全体を通して目標としていたタイムを出すことができず、自分自身まだまだ力不足だと感じたシーズンでもありました。

これから夏の強化期間となりますが、自分の課題を克服し、秋以降の駅伝シーズンでチームの中心選手として結果を残せるよう頑張っていきたいと思います。